

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190500405), 法人名 (株式会社 ニチイ学館), 事業所名 (ニチイケアセンター清田 2F), 所在地 (札幌市清田区清田1条4丁目2番6号), 自己評価作成日 (令和元年8月13日), 評価結果市町村受理日 (令和元年9月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様が参加していただけるようなアクティビティを企画し、入居者様と楽しい時間を共有していただいています。又、ボランティアの方による、ひよっこ踊りやウクレレ演奏による演奏会等で一緒に歌ったり、ご家族もアクティビティに参加されるなど、明るく笑顔のある拠点です。前年から継続して、引き続き、地域行事への参加(区民祭りやゴミ拾い)にも参加しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500405-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年9月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、思い出等を大事にし、その人らしく過ごしてゆけるように、事業所の理念を掲げ、又、それを共有し、サービスの実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流は見学会などを通して交わる機会を自分達の出来る範囲にて行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々・御家族・他事業所の方にホームを開放して、認知症の方への理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、利用状況や事故防止の具体的内容についてや運営などの報告、そこでの意見などをサービスの向上・質の向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告や相談を通して、より良いサービスが出来るように協力体制を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的項目を勉強会や研修を行ったりしながら理解を深め、ホーム全体で身体拘束に当たるようなケアを行わないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホーム内の研修等を通して職員の意識を高め、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を用いるなどして、活用・確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には関連書類を読み上げ、その場で疑問や質問内容を都度確認、解決し納得の上で理解・契約を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・意見苦情等は家族会やご家族様来訪時等に管理者・職員でしっかりと把握し、意見要望についてはホーム全体で考え、改善するように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案提起はホーム会議や担当者会議の中で話し合いを行い、時間を設けて解決するように行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を含めた評価制度、又、各自が年間の目標を持ち、意識の向上・やりがいのある職場環境となるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社では職員が育つ事を奨励しステップアップ(非常勤者)が出来る制度が設けられている。又、採用時スタッフ研修の内部研修や有資格者は実践者研修など受講の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区ではGH管理者連絡会があり、定期的に活動、それらをサービスの向上に繋げられる様に取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安や困惑に思っている事や要望に耳を傾け、日々の観察・傾聴などを通して ご本人が安心して過ごす事が出来るように、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり本人や家族とは内覧・契約時などに本人の生活歴などの情報を得ると共に、不安な事・要望などを聞き入れ初期の信頼関係を築けるように努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント・カンファレンス等を通して、本人にとって必要なサービスの検討・見極めを行い、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の生活の中で利用者に敬意を払い、尊厳を大切に、利用者と共に生活や人生を共有していると考え、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の絆を大切にしながら、家族と共に利用者を支えられる様に、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染み方々との交流を継続的に行える様に家族会・運営推進会議・ニチイ祭り・その他ホーム独自の行事など行い、交流の機会を作り、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を良好に保つ為に、リビングのソファで交流したり、レクリエーションなどを通じ、関わりを多く持てるように日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族様から相談等があった際には丁寧に応じ、良好な関係を大切にしながら経過のフォローなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや暮らし方の希望や意向を日々の関わりを通して把握出来る様に努め、趣味や買い物などの希望、ご家族様との連携・関係を調整して配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中から、ご利用者様のこれまで大事にしていた事や生活歴・馴染みの暮らしなど、これまでのサービス利用状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状、一日の過ごし方、心身の状態・保有している力を総合的に把握して日々のケアに活かせる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や主治医にも意見を頂くなどし、本人・家族の意向や役割の確認を行いながら、個別的な介護計画を3ヶ月ごとの間隔で作成し、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中から職員間で情報を収集、日々の情報を共有して、気づきなど毎日の生活を根拠にして介護計画の見直し・作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば家族と連携を取りながら、可能な限り、職員が付き添い通院や買物に出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の支援の為に、地域資源の把握に努め、本人が心身の力を発揮出来る様に努めているが、現状は不十分である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの適切な医療が受けられるように、本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医・住診医と事業所とが良い関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は訪問看護師に情報や気づきを報告・相談を行いながら、健康管理や医療的な指示をもらいながら適切に早期対応ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者との情報交換・家族や医療機関と相談しながらスムーズに退院へ繋げられるように支援・努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した際のホーム側の対応は、早い段階で主治医等との相談・説明を受け、家族やご本人様と話し合い訪問看護師や医療機関と連携処置を決定するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は勉強会などを設けて、初期対応の訓練の対応把握、急変時や事故時の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いによる総合的訓練を年2回行ない、夜間想定の実施、又非常食や緊急時の備品等の整備。消防職員や近隣の方々との協力要請・関係作りをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声掛け、対応法は社内外研修や勉強会を通じ職員の意識や質の向上を図り、誇りやプライバシーを損ねない一人ひとりの人格を尊重する丁寧・適切な対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自分の希望や思いを表現できるように働きかけ、自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者が本人らしく、共同生活の中で出来るだけ自分のペースで穏やかに過ごすことが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的(2ヶ月に1回)に訪問理美容にて髪をカットしたり、男性の方は顔の髭剃りなど。家族の協力を得ながら季節に適した衣類を用意して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者様の嗜好・希望を誕生日や季節・行事に合わせたメニューで食事を楽しめるようにしている。又、食事の盛り付け、片付けなどは一人ひとりの出来る力を生かし行って頂くように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の確保は栄養バランスを考慮し、各自の身体状態に応じた形態や量を個別に対応し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内状況を把握し、ご本人様に応じた声掛け・ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体状況に合わせた方法で排泄の自立を支援している。職員同士が連携し、自立支援が行えるように支援・実線している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活で十分な繊維質と朝食前の牛乳、飲むヨーグルトなどの乳製品などの摂取などで便秘予防、水分摂取出来るように献立の工夫、又、適度な運動を取り入れた生活支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれ希望・タイミングに可能な限り応え、入浴剤を取り入れたり、浴槽の温度やコミュニケーションを工夫して入浴を安心・楽しんでいただける様に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や前日前夜の状況に応じ、共同生活の中で生活リズムを整え、一人ひとりが快適に過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイル、処方内容を個別に確認できるように管理している。セットから服薬支援まで服薬ミスが起きないように、複数のスタッフで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ・干しなど役割として取り入れている。個別の楽しみとして折り紙や塗り絵遊び、ゲームや歌、麻雀・パズルなどその人に合わせた楽しむ事が出来るように支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は外出制限されているが、体力維持・機能保持の為ホームで体操や簡単な運動を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社規定にて個人での金銭の所持は行えないが、事務所内金庫にてお預かり金としてお小遣い金を説明させて頂き必要時はその都度使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人の手紙・電話に関してはご家族様との意向で止められていない限り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、穏やかに居心地が良く感じられるように心がけている。不快感を与えるものを置いたり、そのように思われるような状態にしないように十分配慮する。又、利用者作成の装飾品など職員と共に行い、生活感や季節感をホーム内でも感じられるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは状況に応じて座席の移動、廊下奥にソファを置き、馴染の関係の利用者同士が談笑したり、思い思いに安心感を持って生活出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みの品や生活暦などを考慮、又、安全面も考慮し、その中で安心感を持って暮らしているように居室空間を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室にはそれぞれ目印が付いており、安全かつ自立した生活が送れる様に工夫を行っている。		